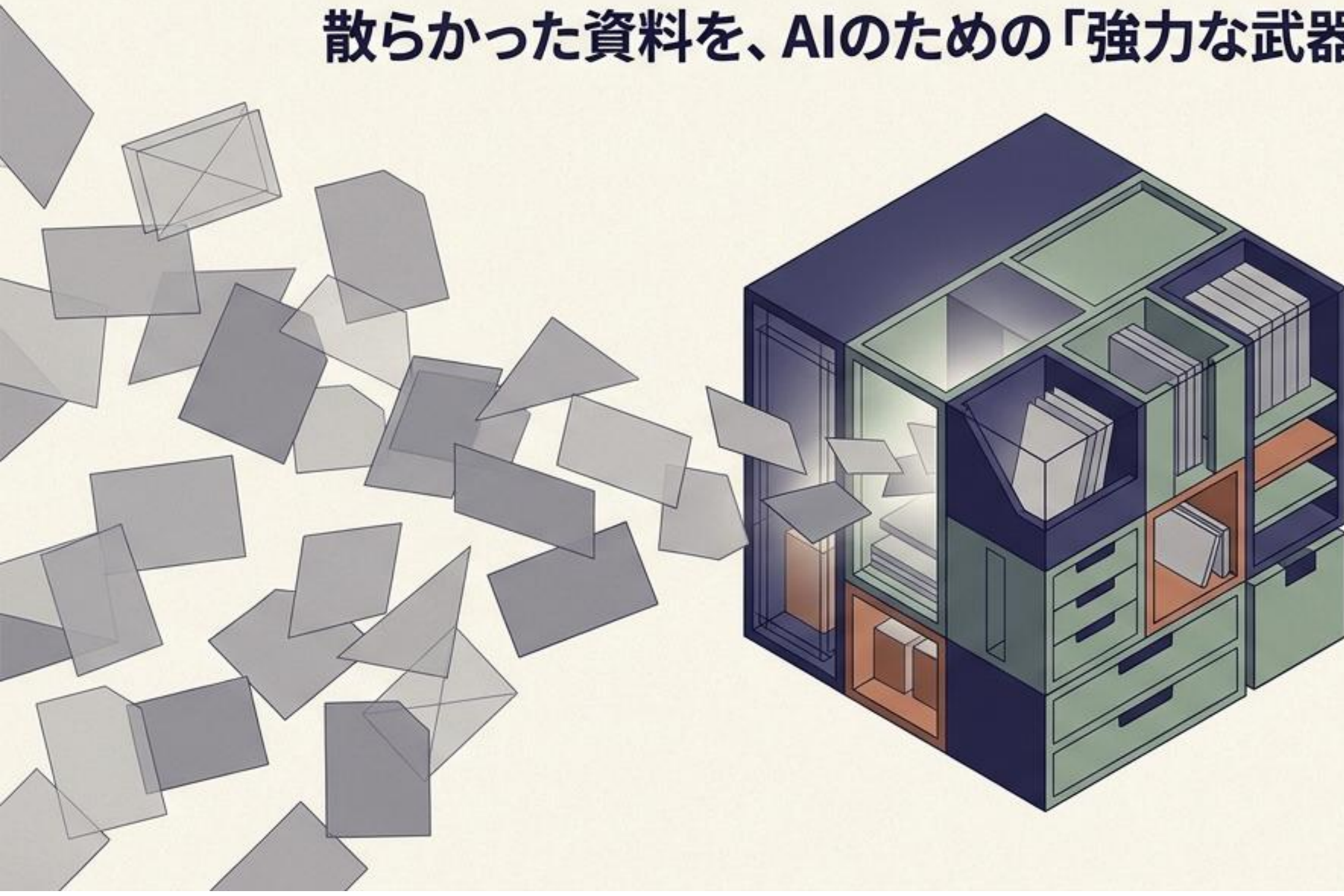
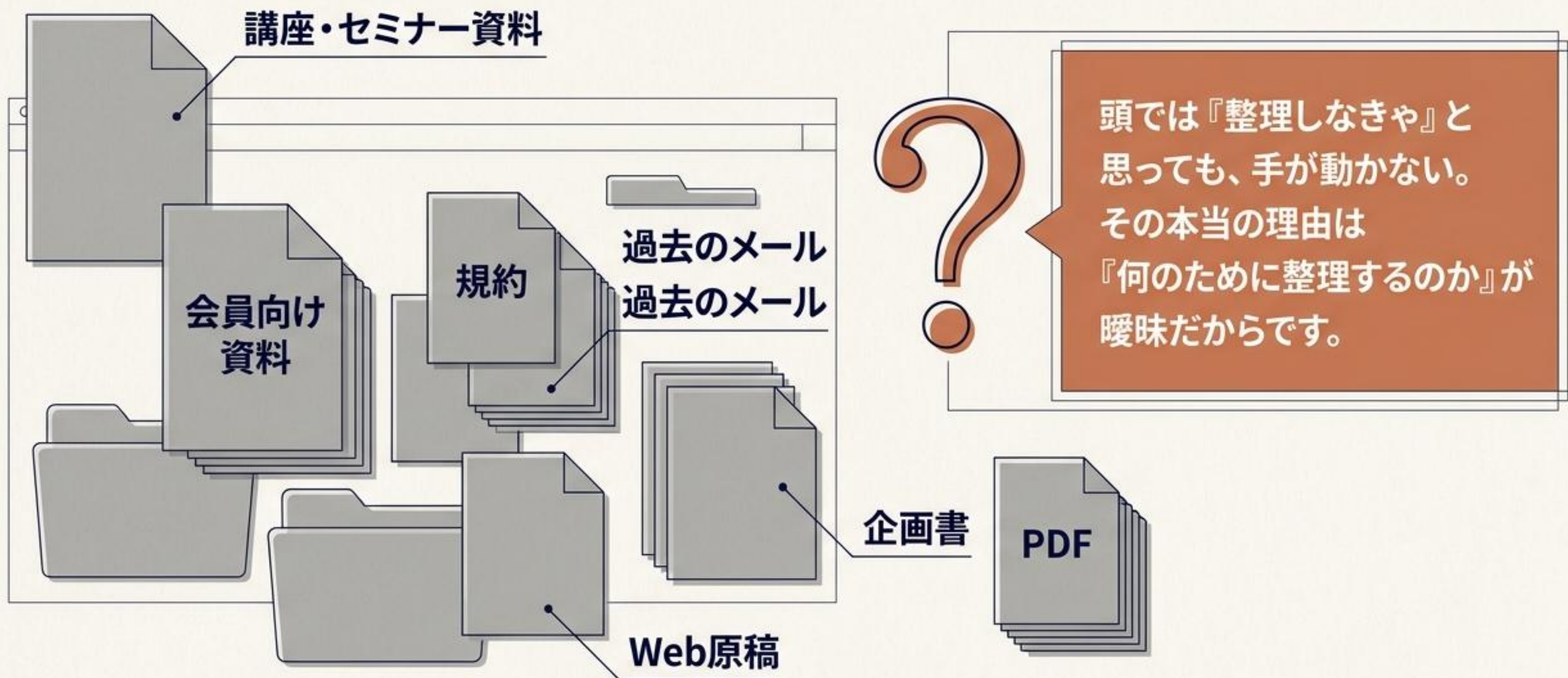


AI時代の「知識セット」運用入門

散らかった資料を、AIのための「強力な武器」に変える仕組み

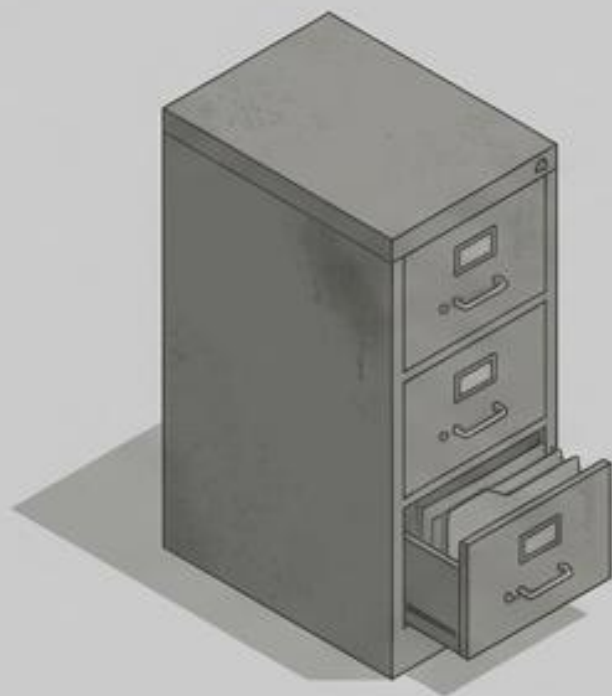


パソコンの中の資料、どう整理していますか？



整理の目的は「AIに必要な知識を渡すため」へ

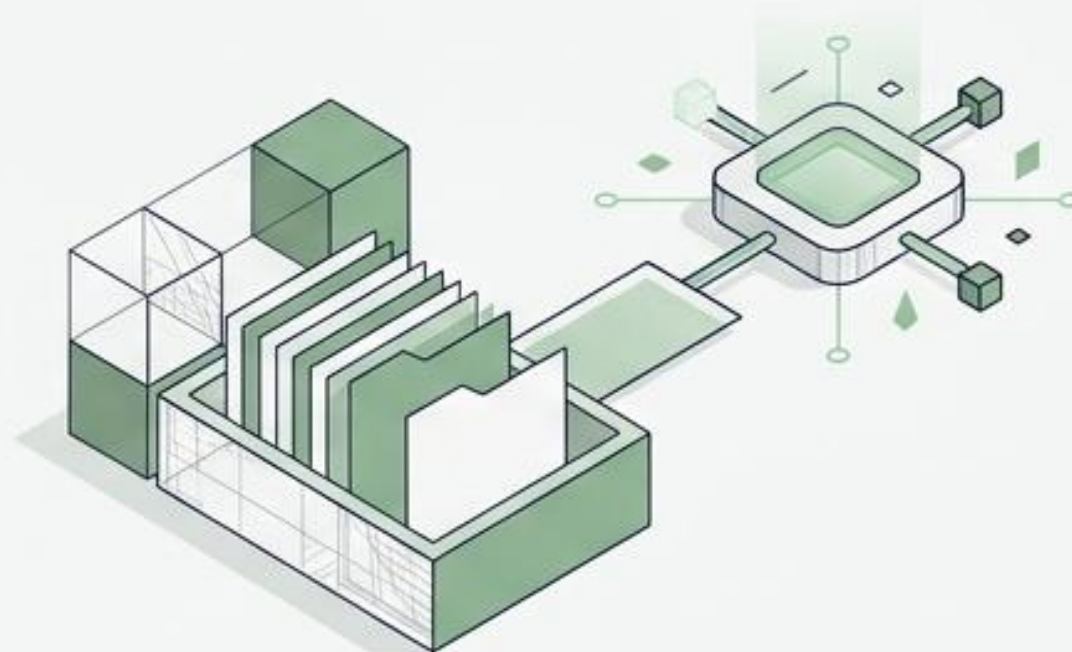
整理のための整理



いつか使うかもしれない...

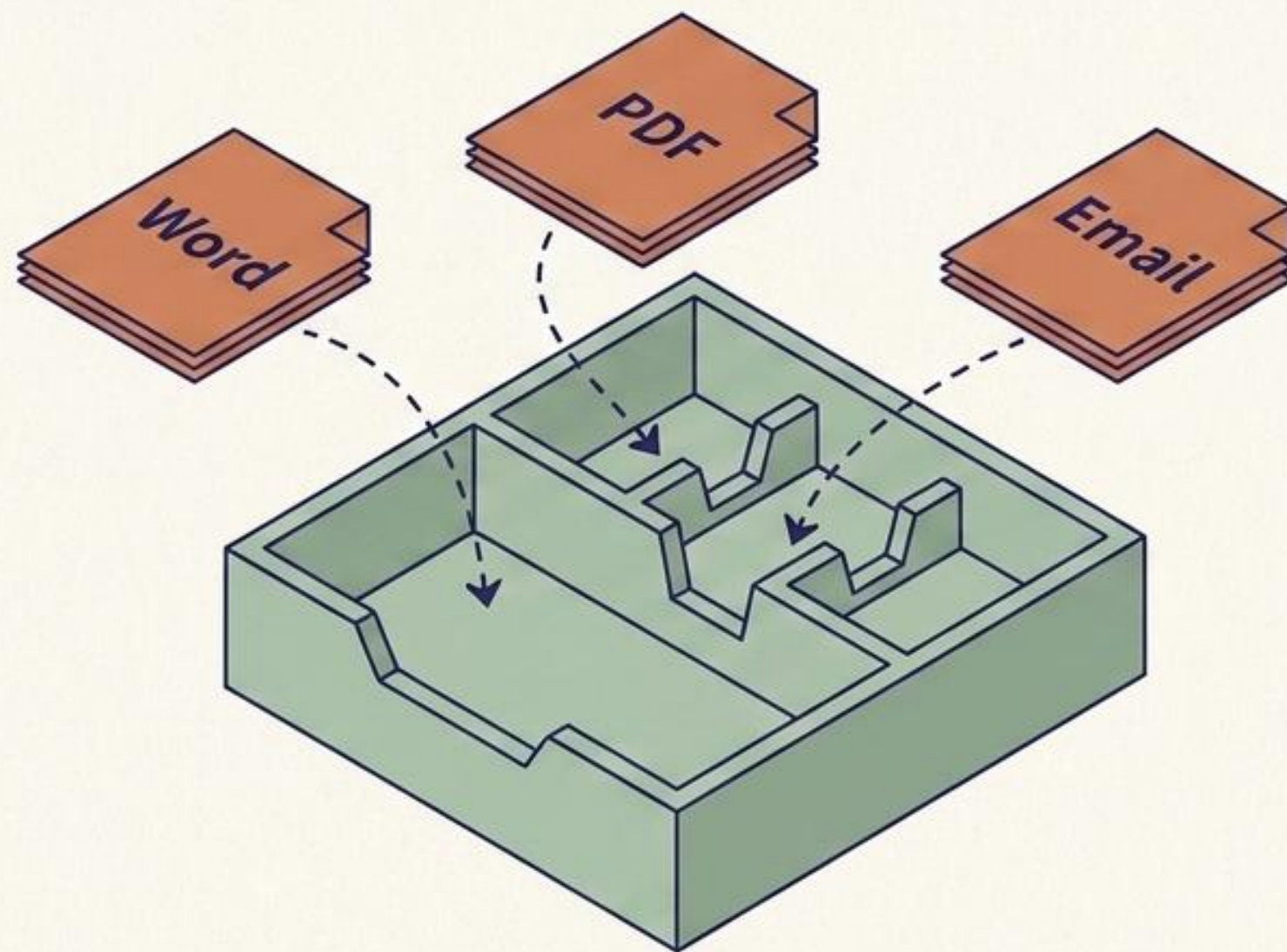


AIへの受け渡し



AIに最高の仕事をしてもらうため！

「知識セット」という新しい概念



「知識セット」＝ タスク内容に応じて、AIに添付する資料の集合

散らかった情報をひとつの「パッケージ」として定義し直すアプローチです。

「どんな知識を持たせるか」でAIの質は激変する

無知なAI

入力：何も添付しない

依頼：新しい講座の案内文を作って

出力：一般的な、どこにでもある案内文

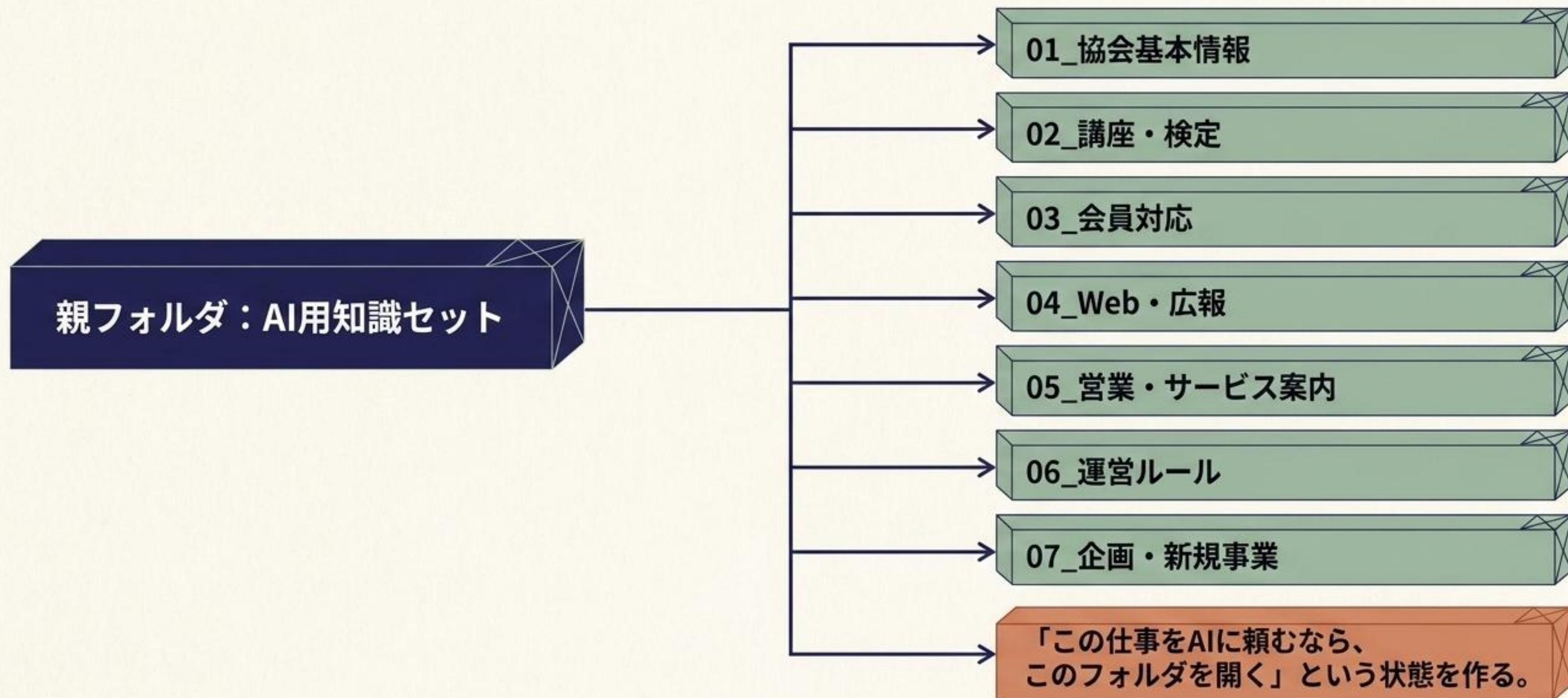
知識セットを持ったAI

入力：協会の理念、過去の案内、
想定受講者、表現ルールを添付

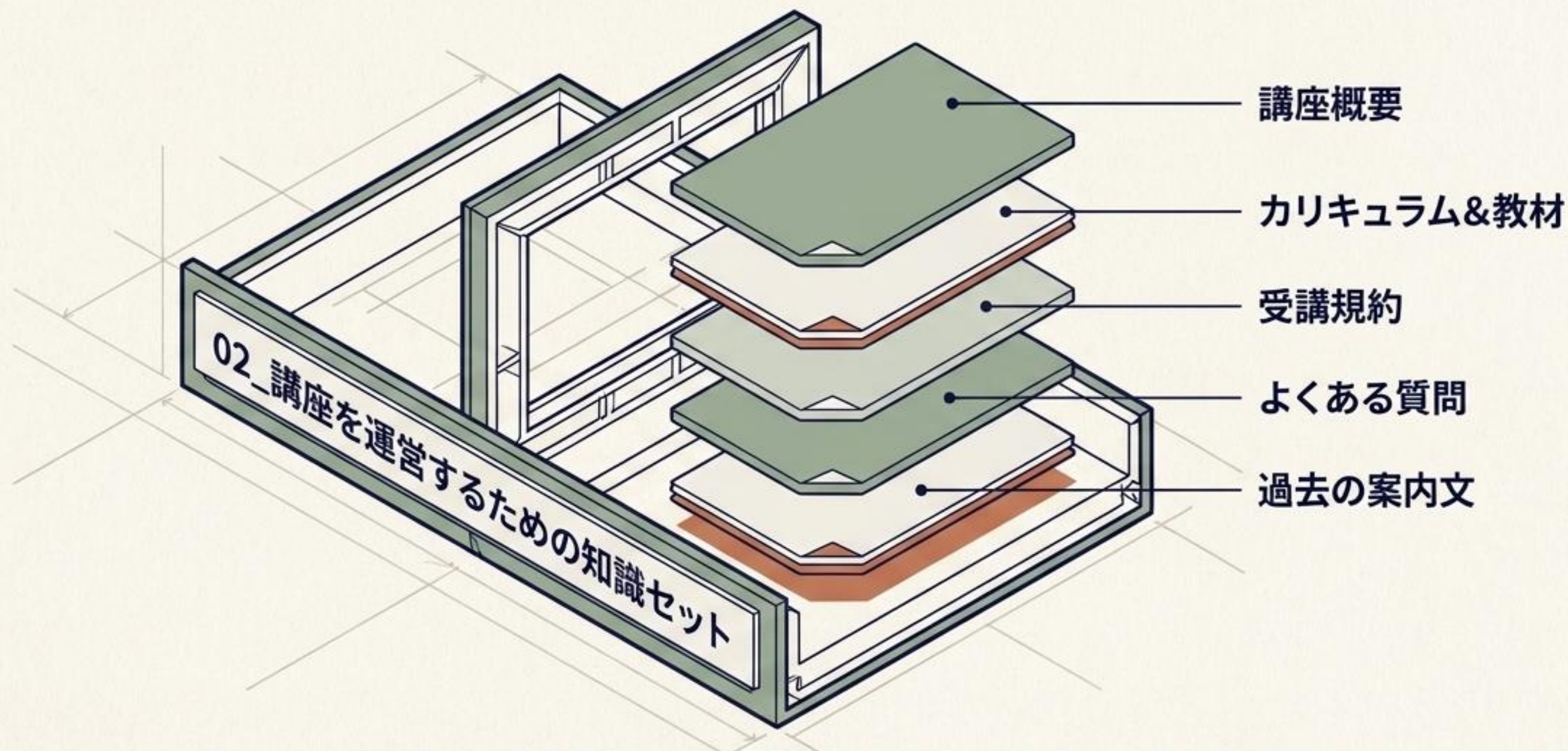
依頼：新しい講座の案内文を作って

出力：協会らしさが詰まった、
質の高い案内文

ファイル形式ではなく「AIへの依頼内容」で分ける



解剖図：ひとつの「知識セット」の中身



これらは単なる保管場所ではなく、AIに仕事をしてもらうための「道具箱」です。

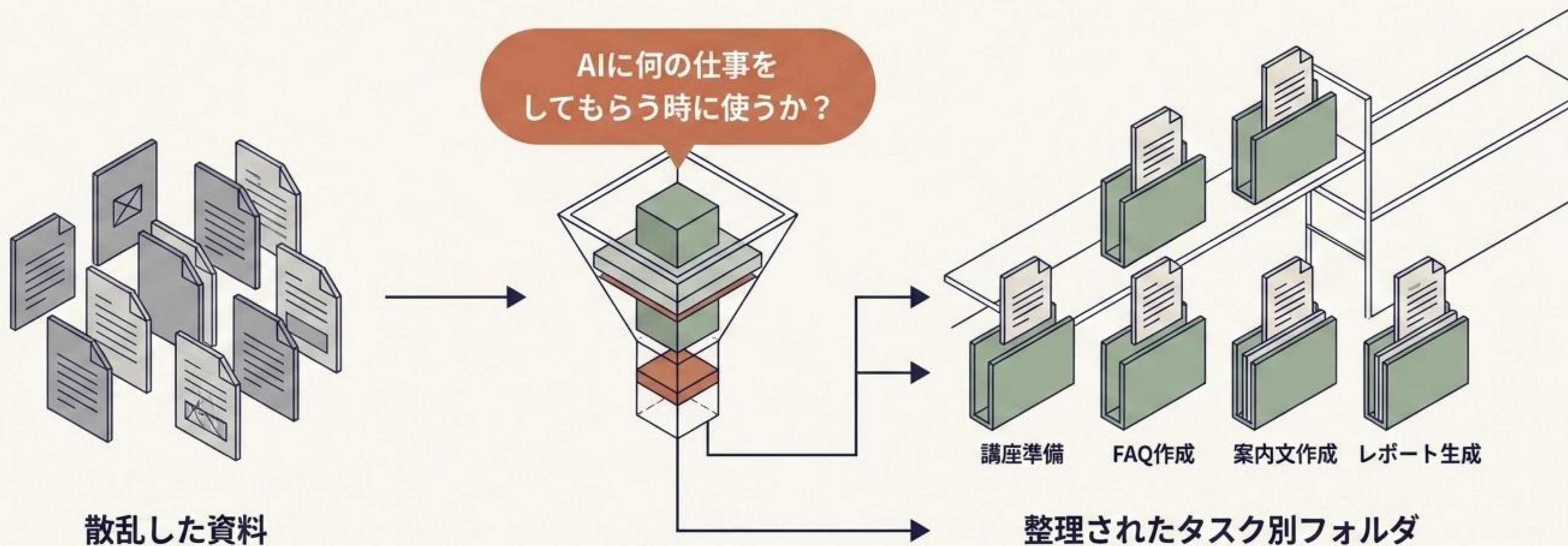
実践ステップ1：AI用「道具箱」を作る

親フォルダ「AI用知識セット」と、
目的別の「道具箱」を準備します。

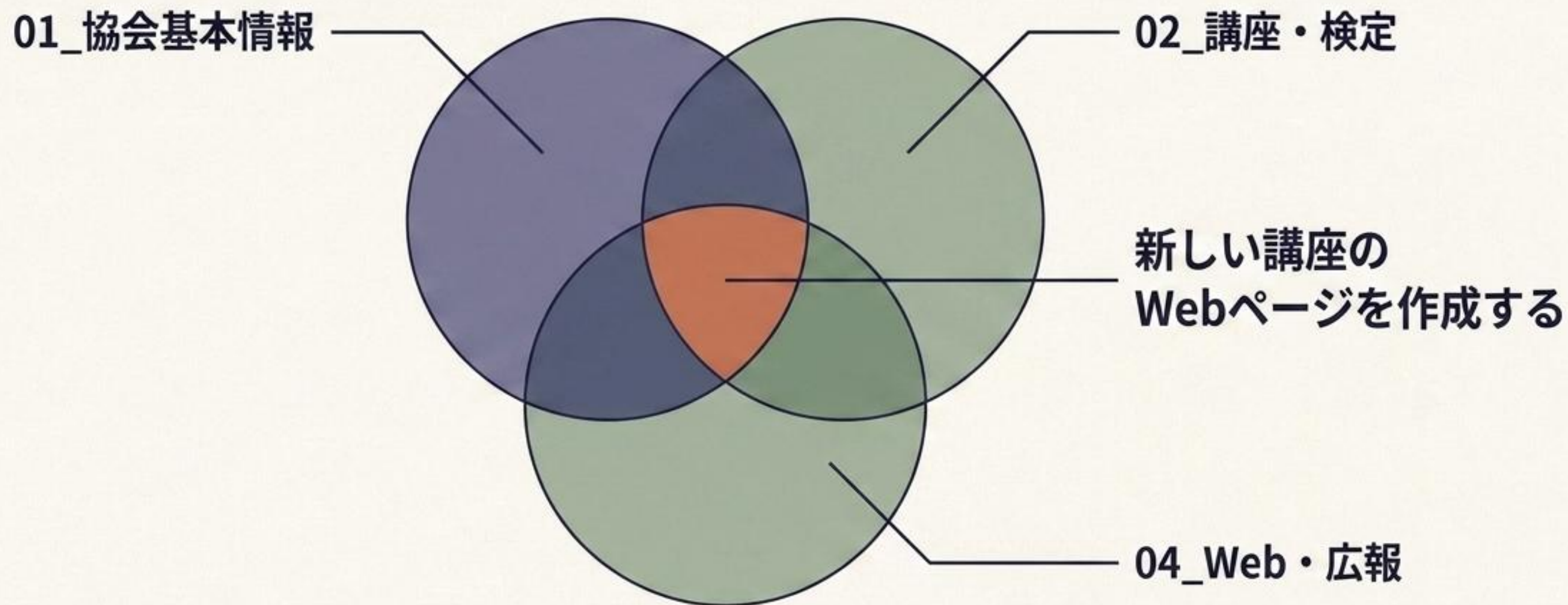


実践ステップ2：「AIに頼む仕事」を基準に移動する

散らかった資料を、タスクごとに該当するフォルダへ振り分けます。

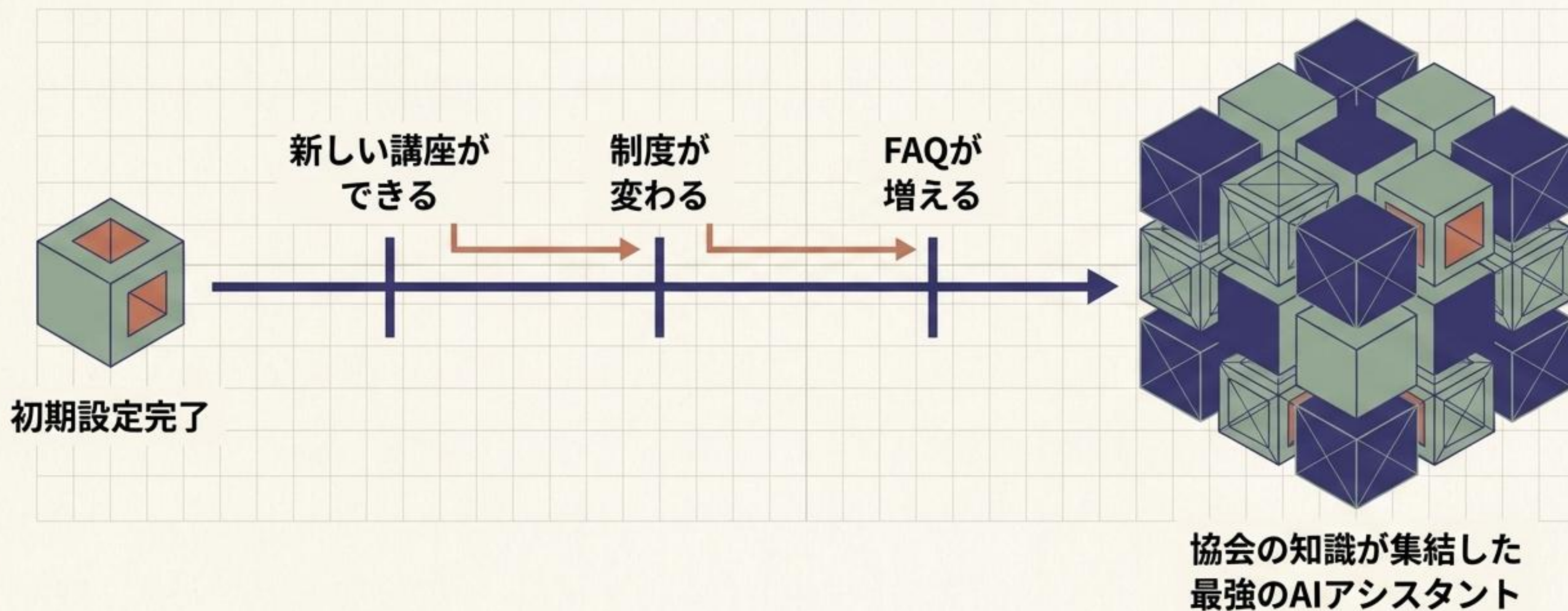


複数の道具箱を「組み合わせる」テクニック



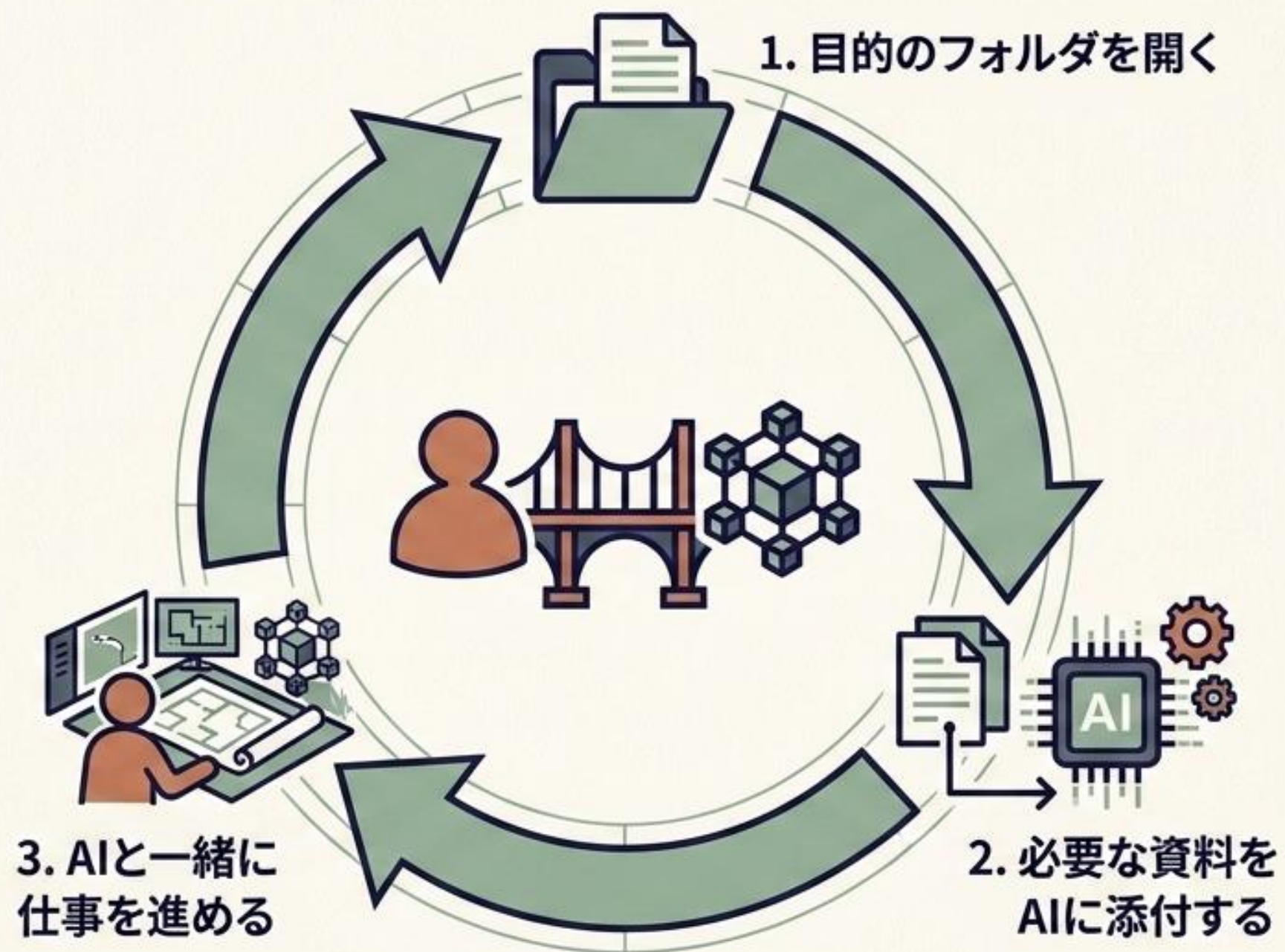
仕事に応じて、必要な知識セットを複数ピックアップしてAIに渡します。

知識セットは「組織の知」として成長する



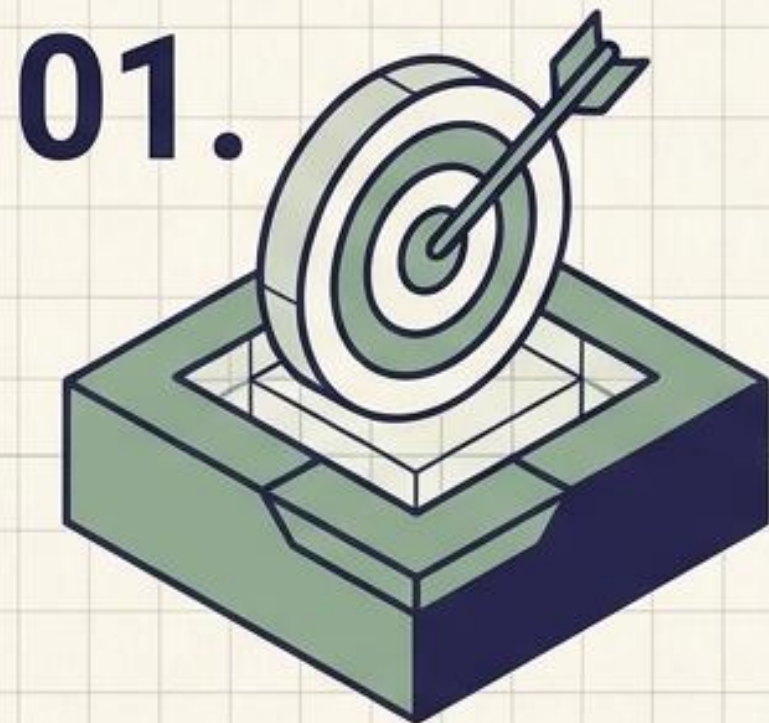
一度作って終わりではない。活動の変化に合わせてAIを「育てていく」仕組み。

「何となく質問する」から「共に働く」へ

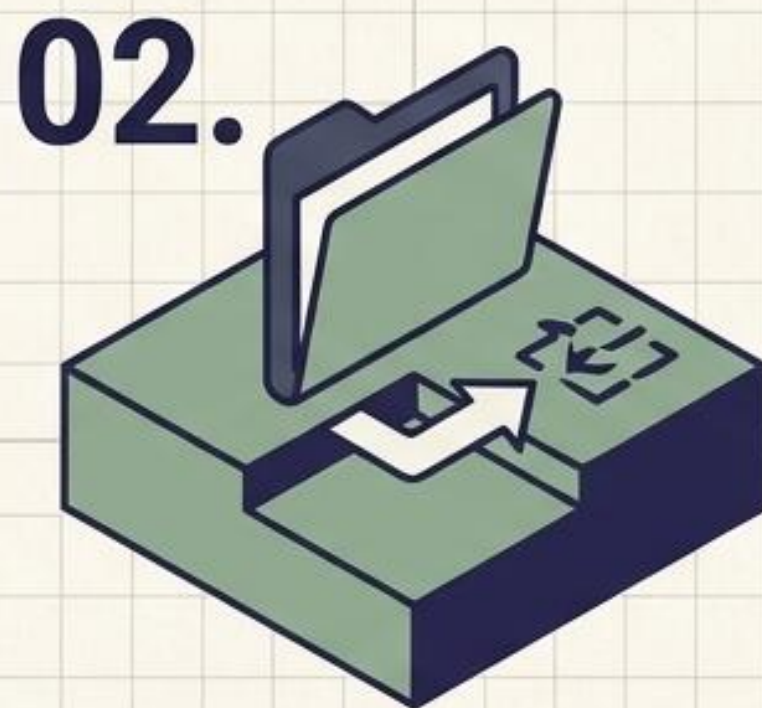


AIを開く前に、まずは「道具箱を開く」習慣を。

本日のまとめ：AI時代の新しい整理術



目的の転換:
整理のための整理をやめ、
「AIに知識を渡すため」に
ファイルを集める。



タスク別分類:
ファイル形式ではなく
「AIに頼む仕事」ごとに
フォルダ（道具箱）を作る。



組み合わせと育成:
仕事に応じてフォルダを組み合
わせ、組織の変化に合わせて
資料をアップデートし続ける。

さあ、PCの中に「AI用知識セット」フォルダを作ることから始めましょう。